

## TOEIC® 教材を活用した一石「数鳥」の音読指導

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-04-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 安藤, 公仁 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://osaka-shoin.repo.nii.ac.jp/records/4397">https://osaka-shoin.repo.nii.ac.jp/records/4397</a>

## TOEIC®教材を活用した一石「数鳥」の音読指導

英語教育センター参与 安藤公仁

はじめに

英語学習における音読の活用は、多くの指導者が提唱しているところである。また、音読の効用を活かし、英検合格やTOEIC®の得点アップという具体的な成果に結び付けている学習者も多い。書店には音読用の教材が数多く並び、また、音読のやり方についても、リピーティング、オーバーラッピング、シャドーイング等々、様々な方法が紹介されている。しかしながら、音読は学習者にとって必ずしも魅力的で楽しい学習方法ではなく、どちらかという退屈でモチベーションを維持しにくい、面白みのない学習法である。したがって、学習者が飽きることなく音読に取り組めるように、指導上の工夫が色々と考えられている。1分間で読む目標語数を設定したり、聞き取った英文の音源を一時停止して、テキストを見ずに再生したり、あるいはピアプレッシャーを背景にペアワークでロールプレイングという具合である。

筆者も英語学習の基礎訓練として音読を授業に取り入れてきた。教材としては、中高の教科書からテキストを採用したシンプルな構成の國広正雄編「英会話・ぜったい音読」（講談社）を最も多く活用した。授業中は多くても3～4回ぐらいしか音読できないので、やり方に慣れさせるのが主眼となり、授業中の音読だけでは大きな効果は期待できない。したがって、毎日30分、少なくとも週に3～4回の自主的な練習を推奨するのだが、律儀に取り組む学生は多くない。しかし、指示通り練習をこなした学生は英検やTOEIC®で確実に成果をあげているので、その効果については疑う余地がない。そこで、学生が自主的に進んで音読に取り組めるように、学生の関心が最も高いTOEIC®のPart 3とPart 4のスクリプトを活用した音読により、TOEIC®の得点アップを標榜する音読指導を実践することにした。授業の音読とは別に、希望者を募り、2～3人までの小人数レッスンとし、アクセントやイントネーションを中心にした発音指導、語彙や文法事項を確認しながらの読解指導、リピーティング、シャドーイング等の音読実践を、1回約40分、徹底して

指導した。学生は次のセッションまでの1週間、同じスクリプトを繰り返し練習するのである。

本稿では、この音読指導のやり方を詳しく紹介し、学生たちが如何に効果を実感しながら、自主的に練習に取り組むようになったかについて述べたい。標題にも示唆したとおり、この方法によって、学生たちが正しい発音を身に付け、リスニング力、速読力、語彙力、会話力の増強、そしてTOEIC®の得点力アップへと、正に一石何鳥もの成果を挙げることができると確信している。

## 1 指導の基本パターン

### 1-1 教材

音読に使用する教材は「公式」と表示されている、財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会発行の「TOEIC® テスト公式問題集新形式問題対応編」のPart 3、Part 4を使用した。現在、新形式問題に対応している、新シリーズ「公式 TOEIC® Listening & Reading 問題集」が第4巻まで発刊されているので、どの問題集でもよい。実際に使用するのと言うまでもなくスクリプトが載っている「別冊『解答・解説』」である。樟蔭学園の英語教育センターには、前シリーズの「TOEIC® テスト新公式問題集」のVol. 1～6、新シリーズの1～4まで、学生の自主学習用に各5冊そろえているので、音読指導希望の学生は各自、この『解答・解説』を見ながら学習することになる。

### 1-2 指導の基本7ステップ (Part 3 のスクリプト利用の場合)

- ① 音源を2回聴く
- ② 指導者がテキストを適宜センテンスないしチャンク毎に句切り範読、学生がリピーティング、2回。発音・アクセント・イントネーションに関する注意事項の説明と練習。
- ③ スクリプトと対訳を見ながら文法事項の説明と読解。
- ④ 指導者範読、学生リピーティング、5回。必要に応じて発音指導。範読する語数と速度を徐々に上げて行き、最終回はひとりの話者の発言全体を範読し、速度は音源の少なくとも×0.9位までアップ。(速度目標は学生の習熟度次第)
- ⑤ 学生が音源を聞きリピーティング、指導者はメディアプレイヤーを

操作し、コンマないしピリオドで止める。(＋インテイク・リーディング、オーバーラッピング、シャドーイング)

- ⑥ 指導者または音源とのロールプレイング。
- ⑦ 音源を聞いた後、設問を活用して指導者との Q&A。

## 2 各パートの指導上の留意事項

ここで各パートを指導する上で、どのような事項に留意して指導したかについて簡潔に述べたい。

- ① スクリプトを見ないで、会話の内容を推測しながら聞くよう指示するが、初めて聴く音源なので、むしろ、スピードが速すぎる、付いていけない、何を言っているのかわからないという印象を持たせるのが主たる目的のリスニングになる。音読練習の後、容易に理解できるようにになっているのを実感させるのである。
- ② 指導者は短めのチャンク毎に句切りながら範読、学習者はリピート、2回。学生が怖気づかないように、この段階では範読のスピードは遅めで、細かく発音を訂正・指導しないこと。本格的な発音・イントネーションの矯正・練習は④の音読練習 5 回の時にさせる。
- ③ 意味が分からないテキストを音読しても、英語学習としての効果はない。したがって、このステップの学習の役割は非常に大きい。しかしながら、音読指導が文法教室になっては本末転倒になるので、大切なことは音読の教材としては大学入試の英文読解のようなテキストは選ばないということである。その点では、TOEIC® の Part 3、Part 4 は日常生活に用いられるビジネス英語なので、音読教材として適度な難易度を持っていると言える。
- ④ 学習者がひとりで、1対1の練習の場合は問題なくリッスン&リピートができるが、2名以上の時は、2人ないし3人同時にリピートさせてはいけない。隣の学生の声が耳に入って来て、自分の声が脳に響いている感覚が弱まってしまい、自分の発音や英語の意味を意識することに集中できない。学生が一度にひとりだけ音読できるように、指導者はチャンク毎に合図をして、順番に読ませる。5回目になると、音源の男性または女性を割り当て、発言全体をリピートさせる。ここでは、リピートした後、指導者がよく使われる表現

を選んで、インテイク・リーディングを取り入れるのも良い。

- ⑤ ここでは overaction と言われるぐらいに、恥ずかしからず、ジェスチャーも交えながらネイティブスピーカーの発音を真似るように指示する。このステップでは、指導者はタイミングよくメディアプレーヤーを停止・再生する操作に習熟しなくてはならない。時間があれば、学生のレベルを考慮しながら、リピートだけでなくオーバーラッピングやシャドーイングを取り入れるのも良い。
- ⑥ 音源または指導者とのロールプレイング。音源を利用する場合は指導者がここでもタイミング良くメディア・プレーヤーを操作する必要がある。
- ⑦ 指導者は TOEIC® テストの設問パターンを研究し、設問を 2～3 問追加して、今、音読したばかりの会話の内容について、学生と実践的な英会話として Q&A を行う。

学生が音読する時の特に大切な留意点として、どのステップにおいても常に注意喚起を促したことは、十分な声量で、低い目のピッチで、母音を響かせることを意識して音読するという点である。この点は全般的に声が小さい女子学生には重要な留意点となる。シンプルな例でいえば、“five” を「ファイブ」ではなく「フォィブ」という感じに、二重母音 [ai] を響かせるのである。相手に自分の声が聞こえなければ、自分を理解させることはできず、会話が成立しないのは自明の理である。(注1)

### 3 学生の反応

TOEIC® の Part 3、Part 4 のスクリプトを利用した音読練習は、Part 5 の演習とセットにして、週 1 回約 3 ヶ月、希望者を募って実施したもののだが、学生の反応は予想以上に好評であった。ここでは、2 人の学生の学習状況と成果について述べる。

学生 A は TOEIC® 600 点プラス。TOEIC® の得点アップと英語を使うインターンシップに参加する準備として、個別レッスンを希望した。レッスンは学生が履修している、ネイティブスピーカーによるスピーキングの授業の直前の空き時間に設定した。本学生は 7 つのステップの内、①～③ (①音源リスニング②チャンク・リピート③文法事項説明と読解) は時間をかけ

ずに進め、④⑤⑦（④範読とリピート⑤音源とのリピート等⑦設問活用のQ&A）を重点的に練習した。スピードも最終的には×1.0、すなわち音源と同程度の速度でオーバーラッピングやシャドーイングがこなせるように指導した。また、次の週、新しいテキストに入る前に、必ず自主練の成果をチェックした。初めて聞いた時は難しかった発音、スピード、イントネーションも、徹底した音読によってマスターできるようになると、音読が楽しくなり、自主練へのモチベーションも高まるのである。

レッスンの効果について学生と話し合った時に、特に印象に残ったことは、音読の即効性についてである。レッスンの次の時間が、前述のとおり、ネイティブスピーカーによるスピーキングの授業であるが、英語が次々に出てくる感じがする、と語ったことである。文法的に正しい英文を大量に音読しているの、聞いた英文をそのまま最初から理解でき、受け答えも即座に正しい英文が出るようになるのであろう。この学生は、確実に、リスニング力、速読力、語彙力、会話力を増強し、TOEIC®の得点力を高め、英語を使うインターンシップについても活躍できるだろうと確信している。

学生Bは基本的な英文法が十分身につけていない、1回生の学生で、リーディングも不十分である。この学生には、②③④を中心に指導、練習させた。約3か月の訓練の後、レッスンを始めた頃とは比較にならないほど、すらすらと音読できるようになった。

この学生についても音読の即効性を強く感じた。本学ではスカイプを活用して、海外のネイティブスピーカーとの英会話練習を学生に課しているが、その英会話セッションの直前に音読レッスンを設定したことがあった。その時に学生が、音読なしで受けた英会話レッスンの時とは全然違う感じで、英語のフレーズがすらすらと出てきたと感想を述べていたのが印象的であった。

また、この学生については、音読ができるようになったことで英語のテキストを読むことに抵抗なく入っていけるようになったと述べていたが、英語学習を進めていく上で、非常に大きな成果を身に着けたと言えるだろう。英検とTOEIC®の受験に向けて努力を続け、確実に成果を上げるだろうと期待している。

おわりに

本稿で述べたような個別レッスンは、当初は、限られた学生にしか成果が及ばないかもしれない。しかし、成果を上げた学生は必ず自主的に練習を続けるだろうし、効果的な学習法であることを友人にも紹介し、共に実践を始めることもあると思う。指導者としては、授業における音読に加え、本稿で紹介した個別の音読レッスンを地道に続け、ひとりでも多くの学生が英語教育センターで自主学習に取り組み、TOEIC<sup>®</sup>や英検等、英語関係の資格試験で大きな成果をあげ、就職活動にも自信を持って臨み、自分の理想とする未来を切り拓いて行くことを期待したい。

【注1】

「倭国の英語術 英語が身に付く勉強法がわかるサイト」

(<https://everyone-english.com/>)